

星つむぎの村本の森だより No.19

星つむぎの村は、「星を介して人と人をつなぎ、ともに幸せを作ろう」をミッションにプラネタリウム、星空観望会、星や宇宙に関するワークショップなどを展開している団体です。

★ぼく・わたしの絵本

「さわる絵本 これ、なあに？」

バージニア・A・イエンセン、ドークス・W・ハラール：作 菊島伊久栄：訳 偕成社



必ず手で触ってしまう絵本。まっすぐな道をたどっていくと、ハラハラドキドキ。バラバラくんはどこ?? 点字を知らなくても、字が読めなくても、老若男女みんな一緒に楽しめる画期的な一冊です。

「つきのぼうや」 イブ・スバング・オルセン：作 やまのうちきよこ：訳 福音館書店



空にいるお月さまは、池に映った地上の月を連れてきてほしいと、つきのぼうやに頼みます。さてさて、つきのぼうやはお月さまに地上の月を連れて帰ることができるのかな？

★ティーンエイジの君へ

「風が強く吹いている」 三浦しをん：著 新潮文庫



箱根駅伝を目指す竹青荘の10人の大学生。でも灰二と走の二人以外は陸上経験なし。ゴールを目指して「たすき」を繋ぐ、ひたむきな姿に気持ちが重なり、いつのまにかあなたも全力応援！

「ミラクルファミリー」 柏葉幸子：著 講談社文庫



まさかのオヤジが主役。オヤジが語る昔話に「それほんと？」と聞きたくなるけれど、なぜか、その不思議な世界に引き込まれてしまいます。誰にも物語があり、笑ったり、ほろりしたり。

★トピックス。。。

秋といえばお月見。満月は毎月めぐってきますが、秋のころの満月は、ほどよい高さに昇り、収穫を祝うこともあわせて、日本では長くお月見の風習を持ち続けてきました。

「十五夜さん」は、昔のカレンダー（旧暦）の8月15日で今年9月29日でした。

その翌月にやってくる「十三夜さん」は10月27日。

月の光は、窓越しでも感じるができますね。

次号の発行は来年の1月1日です。

星つむぎの村の活動はホームページやYouTubeでもご覧いただけます。

・星つむぎの村HP・<https://hoshitsumugi.org/>

★パパ・ママの本

「いのちを呼びさますもの ひとのこころとからだ」

稲葉俊郎：著 アノニマ・スタジオ



医療の本質とは、人間まるごとの全体性、すなわち、こころ、からだ、たましい、いのち、を扱うことだと医師である著者は言います。秋の夜長、生きていることの不思議について深く考えたい方に。

「金の角持つ子どもたち」 藤岡陽子：著 集英社



サッカーの選抜から外れたことをきっかけに、突然、中学受験を目指す俊介。母、難聴の妹、塾講師、みな何かを抱えながら、彼と共に前を向く。諦めず努力した頭には金の角が、読者にも見えるかも。

★みんな・みんな生きている！

「しあわせの牛乳」 佐藤慧：著 安田菜津紀：写真 ポプラ社



岩手県なかほら牧場の牛たちは、柵に仕切られることもなく、一年中のんびりと山に放され生活しています。糞尿処理も自然任せ。そこに生える野シバを食べ、生きものとしてあたりまえに妊娠・出産します。牛乳は工業製品ではなく母牛の乳なのだから、仔牛が飲んだあとに人間がもらって加工します。1杯の牛乳はたくさんの命に支えられています。環境の持つ能力を存分に活かしてこそ本来の酪農があります。



YouTube
QRコード

星つむぎの村の様々な活動
フライングプラネタリウムや
コンサートなど、
YouTube配信も
ご覧ください。



編集・発行

一般社団法人 星つむぎの村

〒409-1502

山梨県北杜市大泉町谷戸6587-2

☎0551-88-9027

✉ book@hoshitsumugi.org

HP <https://hoshitsumugi.org/>